

## 英語でHAIKU

西原利典

ある日、日本語が全く理解できない生徒がクラスに入ってきた。国際化が進む現代において、さほど驚くことではないし、むしろ当たり前と受け止めるべきなのであろう。いくら日本語を勉強しに来たからといって、一時間中理解できない日本語でまくし立てられる授業は苦痛以外の何ものでもない。彼らを巻き込んで「ことばで伝え合う」活動を仕組めば、彼らにとっても日本人生徒にとっても有意義な言語学習の機会になりはしないか。そうした思いから実施した授業の報告である。

### 1. はじめに

2004年9月下旬、本校はニュージーランドから来広した9名の中学生を受け入れた。約2週間のショートステイではあったが、その間本校生徒の家庭がホストファミリーとして寝食を共にしたり休日と一緒に過ごしたりし、また学校においては午前中日本語クラスで日本文化や日常会話を学習し、午後は通常の授業に参加して本校生徒と一緒に日本人生徒向けの授業を受ける機会を設けた。

その期間中、私の授業に参加するのは3時間という少ないものであった。が、折角日本に来て日本語や日本文化に触れよう、学ぼうとしているのだから、時間が少ないからといってお茶を濁すのではなく、何か一つでも「学んで」帰って欲しいと考えた。

そしてそれが同時に日本人生徒にとっても「学びの場」になればと思い、今回の単元を構想したのである。

### 2. 来広生徒および滞在日程

今回来校したニュージーランド生徒とホストファミリーとなる本校生徒、並びに滞在期間中の日程は以下のとおりである。

ニュージーランド生徒名 (age sex)	ホスト生徒名 (クラス)
Mr Rhys Keil (12M)	山重 薫子 (2A)
Ms Christina Smith (13F)	浦辺 胡桃 (2B)
Ms Alice McIvor (13F)	徳永 瑞希 (2B)
Ms Kayla-Brooke Young (12F)	木村 仁美 (2C)
Ms Jessica-Lyn Kiel (12F)	末広 聡美 (2C)
Mr Vincenzo Braid (13M)	山田 耕平 (3A)
Ms Samantha Marks (13F)	古谷ゆう子 (3B)
Ms Deanna Mackay (12F)	岡東 萌 (12)
Mr Nathan Marks (13F)	東 昌隆 (13)

### 【日程】

9/21 (火)	広島着 オリエンテーション ホストファミリーと対面
9/22 (水)	登校①学内見学 ②日本語クラス ③④学校の授業に参加 ⑤⑥日本文化体験 歓迎会(講堂)
9/23 (木) 秋分の日	休校 ホストファミリーと過ごす
9/24 (金)	登校①②日本語クラス ③④学校の授業に参加 午後 広島城、縮景園見学
9/25 (土)	休校 終日観光 宮島など
9/26 (日)	ホストファミリーと過ごす
9/27 (月)	登校①②日本語クラス ③④学校の授業に参加 ⑤⑥日本文化体験
9/28 (火)	登校①②日本語クラス ③④日本語クラス ⑤⑥附属小学校訪問 放課後 茶道班の活動に参加
9/29 (水)	登校①②日本語クラス ③学校の授業に参加 (台風のため午後カット)
9/30 (木)	登校 終日観光 平和公園など
10/1 (金)	登校①②日本語クラス ③④学校の授業に参加 ⑤⑥さよならパーティーの準備
10/2 (土)	13:00 登校 13:30~15:30 さよならパーティー
10/3 (日)	広島発 帰国

私が担当するクラスに入ったのは Nathan Marks (ネイサン マークス) くん (以下、ネイサン)。双子の姉 Samantha Marks (サマンサ マークス) さんと参加した13歳の男の子である。彼のホストは高校1年生なので授業は中学3年生C組に参加することになった。その際のバディは同じクラスの長谷川容子さんが務めた。



### 3. 「英語のHAIKU」とは

俳句は日本だけの専売特許ではなく、最近では世界中の人が楽しんでいる。英語の俳句 (HAIKU) の詩集も書店で見ることができ、HAIKUはいまや日本発の世界共通の創作の世界となっている。

俳句はいわゆる「五・七・五」の音律から成り立っているが、これは日本語の持つ特徴である「一文字一音節」が可能にしている。もちろん「五七五」に囚われない「自由句律」といわれる俳句もあるが、ここでは「五七五」の定型句だけを取り上げることにする。

では基本となる「五七五」のリズムを英語でどう再現するのか。

英語の単語におけるsyllable (シラブル) を利用するのが一般的のようである。シラブルとは英単語での音節のことで、一つの音節を5・7・5の中の1とカウントし、三行の詩にする。それぞれの英単語が何音節かは英和辞典で調べることができる。

例えば秋の風物詩の「蜻蛉(とんぼ)」は「dragonfly」であるが、辞書で調べると、発音記号のところに dragon・fly と”・” (多少辞書により印は異なる) のマークによって二音節であることがわかる。従って”・” マークがないものは一音節ということになる。一つのシラブルを5・7・5のリズムの中の1とカウントして三行詩にするわけであるが、英単語の数でいうとトータルで平均して10から15語になるのがわかる。

一つの単語を1とカウントし計17語の単語からHAIKUを創るという考え方もある。特別定まった

定義というのではないようで、自由に創作すればいいのであるが、出版されているHAIKU集等を見ると、5・7・5のリズムをシラブルで数えている場合が多いようである。

### 4. 授業の実際

先に記したように、一般的にはシラブルを基本単位としてHAIKUを作っていくのであるが、中学校3年生という学齢を鑑み、今回は特にシラブルにはこだわらないことにした。

(1) 期日 2004年9月22日(水)~27日(火)

(2) 対象 中学校3年生C組 (男子21名女子19名)

およびMr Nathan Marks

(3) 実践記録

第1時

- ・外国人生徒に「俳句」を理解させる。
- ・日本人生徒に「俳句」を英語でどう伝えるか考えさせる。

まず何はともあれ「俳句」とは一体何なのかをネイサンに理解させなければならない。体躯こそ日本の高校生並であるが年齢は13歳、中学1年生である。日本語はあいさつ程度を知っているだけで、会話は全く理解できない。彼のバディを買って出た長谷川さんは幼い頃から英会話を学び、日常会話レベルならコミュニケーションがとれる。しかし「俳句」という日本独特の表現文化について彼にわかりやすく説明できるまではいかない。

私自身も英語を駆使できない。まず和英辞書で「俳句」を引いてみると、そのまま「haiku」としか載っていない。次に英英辞書にあたっても見出し語にさえ無い。

外国人向けの解説書にいくつかあたる次のように記載されていた。

俳句

1. A haiku is a 17-syllable poem.  
(17音節から成る詩です。)
2. It has to follow the pattern of five-seven-fivesyllables.  
(5-7-5型の音節にすることが約束です。)
3. The haiku poem is in complete harmony with the rhythm of the Japanese language.  
(日本語のもつリズムにととも良く調和します。)
4. It is a compact and most evocative verseform.  
(簡素にしてしかも最も感情あふれる詩の形式です。)  
(以下省略)

トミー植松、『英語で紹介するニッポン』、ジャ  
パンタイムズ、1989年、P.184

## HAIKU 俳句

*Haiku*, a Japanese poetic form, developed from the longer *haikai* (*renga*), the first part of which become an independent unit. It comprises 17 syllables(5-7-5 syllables) and has to contain *kigo*, a word that expresses a season. Matsuo Basho was a famous haiku poet in Edo period (1600-1868). In the Meiji period (1868-1912), Masaoka Shiki revolutionized *haiku*.

俳句は、もとは俳諧と呼ばれ連歌の第1句目が独立したもので、5・7・5の17音節から成り、季語を入れるきまりがある。江戸時代には松尾芭蕉が活躍し、明治時代には正岡子規がこれを「俳句」として完成させた。

インターナショナル・インターンシップ・プログラムズ、『イラスト日本まるごと事典』、講談社、2003年、P.106

日本人生徒にも英語による「俳句」の説明に挑戦させた。まずできるだけ簡素な日本語で説明文を作らせ、それを英訳するといった手順を踏んだ。

あくまでも国語科授業であるので、英訳の良し悪しにはこだわらず、「俳句」をどれだけシンプルに日本語で説明できるかに重点を置いた。そのためにはどこまで表現しなければならないか、どこを削除すべきか呻吟しなければならない。その過程を学習として位置付けたかったからである。

その結果「Haiku is Japanese the shortest poem. It comprises 17 syllables(5-7-5 syllables) and has to contain kigo, a word that expresses a season.」という説明にたどり着き、ネイサンも理解したようであった。

## 第2時

- ・外国人生徒に俳句を一句暗記させる。
- ・日本人生徒に有名な俳句を英訳させる。

取り上げた句は松尾芭蕉の「古池や 蛙飛びこむ水の音」である。

この句は俳句の代表であり、小学生でも知っている程、有名なものである。芭蕉が「おくのほそ道」に旅立つ少し前の貞享三（1686）年、芭蕉43歳の時の句である（芭蕉が「おくのほそ道」に旅立つのはその三年後の元禄二(1689)年である）。

この句を「一発翻訳」という翻訳ソフトで英訳させるとどうなるだろうか。「古池や蛙飛びこむ水の

おと」を和訳させると、渋々「With sound of the water that an old pond and a frog fly」と出てくる。助詞「や」が邪魔をしているようで、うまく翻訳できない。もともと翻訳ソフトは比喩の多い詩の和訳、英訳に向いていない。

これを「古池に蛙飛びこむ水の音」にすると、一発で「The sound of the water that a frog flies to the old pond」と出てくるが、これではこの句の感じ、風情は全くない。

ラフカディオ・ハーンはその著書『異国情緒と回想』（1898年）の中でこの句の英訳を紹介している。

Old pond - frogs jumped in -  
sound of water.

またドナルド・キーンは次のとおりである。

The ancient pond  
A frog leaps in  
The sound of the water.

ハーンは蛙を複数、キーンは単数で捉えている。また音節数で見れば、ハーン訳は2・3・4で9音節、キーン訳は4・4・6で14音節。ハーンが冠詞を省略して俳句の簡潔な表現形式に近づこうとしているのに対し、キーンは冠詞を用いて音節数を5・7・5に近づけようとしているのがわかる。

授業においては、ネイサンに対して英訳を与えずに「Furuikeya kawazu tobikomu mizu no oto」の形で示し、音読しながら次の時間までに暗唱するよう指示した。そして授業の最後に単語として「Furuike=old pond」「kawazu=a frog」「tobikomu=jump into」「mizu no oto=sound of water」とだけ示した。

一方日本人生徒には、前時に俳句の解説を考えさせたのと同様に、英訳に繋がるようにこの句に表された情景や、込められている作者の心情をわかりやすく日本語で説明するよう指示した。

俳句の鑑賞とまではいなくても、その句に詠まれた情景・心情を考えると学習活動は国語科教育の中でよく行われる。本単元はその活動の先に「同世代の外国人にわかりやすく英語で伝える」という作業を睨みながら行うものであり、それだけ言葉

を吟味し精選する必要が生じる。

生徒の作品をいくつか紹介する。



(句の解釈)

まわりが静かなところで蛙が古池に飛び込んだ。その時に水の音が聞こえた。芭蕉はその音を聞いてあると思った。風情があると思った。

(英訳)

Basho thought sound of the water frog dived into a quiet old pond was nice. (A.T)

(句の解釈)

静かな古池で蛙が飛び込んだときの水の音がよく響いている様子。周りが静かなのでその音だけが聞こえて、なんか寂しい感じ。

(英訳)

Matsuo Basho heard the sound of the water when the frog into the pond. There was silent and sound was small. So he felt lonely. (K.H)

(句の解釈)

静かな古い池の周りでは、蛙が飛び込んだ時の水の音さえも不思議で楽しく聞こえる。自然の音とは、とてもいとおしいものだ。

(英訳)

An old pond was quiet. Sound when frog dived into an old pond is beautiful and mystery there. (R.T)

(句の解釈)

山の中にある池に蛙が飛びこむという情景。山の中はとてもひっそりとしているため、池に蛙が飛びこんだときの音がより鮮やかに聞こえる。

(英訳)

A frog jump and into the pond in the mountain. This sound is more beautiful than any other sound. (S.T)

(句の解釈)

青くよどんだ古池のあたりは静まりかえっていて、とても幻想的である。その静けさを破って池へ蛙が飛び込む音で現実に呼び戻された。

(英訳)

One day, a stagnating old pond in moss become quiet, and it was a visionary place. Suddenly, the sound of diving frogs into the pond broke the silence. when Basho heard it, he was called back to reality by it. (U.T)

(句の解釈)

シーンとした何の音もしないようなとても鈴かな古池。そんな静かなところで時折水の音が聞こえる。作者はきっとその音を蛙の飛び込む

音だと思ったのだろう。

(英訳)

In silent old lake, I hear only water of sound. It is surely frog dive. (C.M)

(句の解釈)

春から夏に変わっていく時期に、柳とか苔の生えた岩とかある古い風情のある池で、とても静かでほとんど音のしない静寂の中で、蛙が池に飛びこむ音だけがかすかに聞こえた瞬間を俳句に詠んだ。

(英訳)

In silence a frog jump into an old pond and hear sound of water faintly. (M.O)

(句の解釈)

静かな場所で蛙が古池にとびこむ水の音だけが響いている様子。蛙が一匹だけ池に飛びこんで、古池の周りにはとうとう生き物が一匹もいなくなった、さびしくて、でも感慨深い風景が私の中で浮かんでくる。その場所は人があまり足を踏み入れない、手つかずの自然だけに、蛙が飛びこむ「ちゃぼん」という水の音がすごく響くと思う。その音がとても風情がある。

(英訳)

The notice of the water when frog dive into a quite old pond is very elegant. (M.K)

### 第3時

前の時間に書かせた英語による句の解説文を全員分ネイサンに渡し、それらを踏まえて彼なりの解釈を英語で書いてもらった。



The frog jumped into the old pond. When he landed the water made a beautiful sound.

彼はこの句を日本語で完璧に暗唱できていた。



## 5. 成果と課題

当初「英語でHAIKU」の意味は「英語でHAIKUを作ってみよう」という意図でスタートした授業であったが、時間的な制約があり「シラブル」という言語単位を浸透させるまでに至らず、結局「英語でHAIKUを解説しよう」という学習活動に終結してしまっただ。しかしながら国語学習の一環でしかも中学校3年生の段階では、今回の学習意義は十分あったと考えられる。

短時間であったからこそ集中して俳句と向き合い、そして短期間ではあるがクラスに訪れた海外からの

ゲストに何とかして伝えようとするモチベーションが学習者をして日本語、そして英語と格闘せしめたのではないだろうか。そして「俳句」という日本文化を日本人の視点、外国人の視点で捉え直す契機になったと思われる。

そういった意味では双方にとって刺激的な学習になったのではないかと自負している。

私自身の英語力の無さから、生徒の英作文を添削指導・評価するところまで至らなかった。今後はこの学習を英語科とクロスカリキュラムで実施できれば、さらに学習者の言語感覚・言語能力を高めることができると思われる。

## 6. おわりに

私も海外でホームステイを体験した際、拙い英語力を駆使して何とかして自分の思いを相手に伝えようと奮闘し、そしてそれが伝わったときの喜びは何とも言えないものであった。

国語科学習において「伝え合う力」の育成が推進されている。その必然性がいろいろ論じられているが、何よりも「伝われば嬉しい」という誰もが味わったであろう気持ちから出発すべきではないだろうか。